

安全データシート

流動パラフィン

改訂年月日：2026年5月11日

1. 化学品及び会社概要

化学品等の名称	流動パラフィン
供給者の会社名	コーキン化学株式会社
住所	大阪府東大阪市中石切町 3 - 7 - 49
電話番号	072-988-2300
FAX 番号	072-988-2506
電子メールアドレス	yakuji@kohkin.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	飼料添加物の賦形物質

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

区分 2（肺）

誤えん有害性

区分 1

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期または反復ばく露による肺の障害のおそれ
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

【安全対策】
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

【応急措置】
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】
施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名または一般名	流動パラフィン
別名	鉱油、ミネラルオイル、ニュートラル潤滑油用基油
濃度又は濃度範囲	情報なし
化学式	特定できず
CAS 登録番号(CAS RN)	8042-47-5
官報公示整理番号(化審法)	(9) - 1692
官報公示整理番号(安衛法)	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

4. 応急措置

飲み込んだ場合	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	水と石けんで洗うこと。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
眼に入った場合	水で十分洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合、医師の診察を受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状	情報なし
応急措置を行う者の保護	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 回収、中和	環境への放出を避けること。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法・ 機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱う時、用いる全ての設備は接地する。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保管	
技術的対策	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
混触危険物質 保管条件	『10. 安定性及び反応性』の項を参照。 酸化剤から離して保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
許容濃度	
日本産業衛生学会	3mg / m ³ (鉱油ミスト)
ACGIH	TLV - TWA 5mg / m ³ (鉱油ミストとして) TLV - STEL 10mg / m ³ (鉱油ミストとして)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。

高熱工程でミス、ガスが発生する時は、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

保護具

- 呼吸器用の保護具 適切な呼吸器保護具を着用すること。
- 手の保護具 適切な保護手袋を着用すること。
- 眼の保護具 適切な保護眼鏡を着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 適切な保護衣及び保護マスクを着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状态：物理状态 粘稠性液体
- ：色 無色透明
- ：臭い 無臭
- 融点・凝固点 データなし
- 沸点、初留点及び沸騰範囲 > 300
- 可燃性 データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界 データなし
- 引火点 > 115
- 自然発火点 260 ~ 371
- 分解温度 データなし
- pH データなし
- 動粘性率 データなし
- 溶解度 水に不溶、エタノールに難溶、エーテル、クロロホルムに可溶。
- オクタノール/水分配係数 > 6
- 蒸気圧 データなし
- 密度及び / 又は相対密度 0.84 ~ 0.94 (水=1) (15)
- 相対ガス密度 データなし
- 粒子特性 データなし

10. 安定性及び反応性

- 反応性 強酸化剤と反応する。
- 化学的安定性 酸、熱、光に対して安定である。
- 避けるべき条件 情報なし
- 混触危険物質 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

- 急性毒性
- 経口 ラット LD₅₀ > 5000mg/kg に基づき区分に該当しないとした。

経皮	ラット LD ₅₀ > 5000mg/kg に基づき区分に該当しないとした。
吸入：ガス	常温で液体であるため、区分に該当しない。
吸入：蒸気	データ不足のため分類できない。
吸入：粉じん、ミスト	ラット(4時間) LC ₅₀ > 5 mg/L に基づき区分に該当しないとした。
皮膚腐食性 / 刺激性	ウサギを用いた試験において刺激性は認められなかったため、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性	ウサギを用いた試験において刺激性は認められなかったため、区分に該当しないとした。
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	モルモットを用いた OECD Guideline 406 に準拠した複数の試験 (maximization test を含む) において、いずれも感作性なしとの結果が得られているので、区分に該当しないとした。
生殖細胞変異原性	DFG (2015) に、「高精製鉱油は、サルモネラ菌を用いた変異原性試験、マウスリンフォーマ試験、骨髄を用いた細胞遺伝学的試験、小核試験で遺伝毒性を示さなかった」旨の記載があるが、試験の詳細な記載がなく、データ不足で分類できないとした。
発がん性	IARC では、未精製又は軽度処理油 1 はグループ 1、高度精製油はグループ 3 に分類され、ACGIH でもほぼ同様の分類がなされている。本品は高度精製油であるので、区分に該当しないとした。
生殖毒性	EFSA は生殖毒性の可能性はないと思われるとしているが、データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	ラットにエアロゾルを4週間吸入暴露した試験で、「投与に関連した臨床状態の変化はみられず、体重、血液検査、生化学検査に影響はなかったが、全投与群で肺胞に泡沫マクロファージが、1mg / L 投与群に気管気管支リンパ節へのマクロファージ集積が観察され、肺重量の増加が0.22mg / L 以上投与群の雌と1mg / L 投与群の雄に見られた」 (US HPVIS (2011)) 旨の記載、雌雄ラットに12か月間、雄イヌに24か月間、ミネラルオイルを吸入暴露した試験で、「いずれも0.1mg / L 投与群に肺の小肉芽腫が見られた」 (DFG (2015)) 旨の記載、雄イヌに最長24か月間、Pure white naphthenic mineral oilを吸入暴露した試験で、「0.1mg / L 投与群の肺に ALPの増加や脂肪肉芽腫形成が見られた」 (DFG (2015)) 旨の記載がある。以上より、「区分2 (肺)」とした。
誤えん有害性	ICSC の分類に従い、「区分1」とした

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急) データ不足のため分類できない。

性)

水生環境有害性 長期(慢性) データ不足のため分類できない。

性)

オゾン層への有害性 データ不足のため分類できない。

残留性・分解性 データなし

生態蓄積性 データなし

土壤中の移動性 データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 該当しない

品名(国連輸送名) 該当しない

国連分類(輸送における危険有害性クラス) 該当しない

副次危険 該当しない

容器等級 該当しない

海洋汚染物質 該当しない

MARPOL73/78附属書 該当しない

及びIBCコードによる

ばら積み輸送される

液体物質

国内規則

陸上規制情報

消防法: 危険物第4類引火性液体第三石油類非水溶性液体 危険等級

海上規制情報

航空規制情報

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

15. 適用法令

消防法	危険物第4類第3石油類（非水溶性）危険等級（2000L）
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物（1%） 名称等を通知すべき危険有害物（0.1%）

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にしたのですが、すべての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定などにご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、物理化学的性質などの数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取扱いを想定しており、特殊な取扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

- 厚生労働省 職場のあんぜんサイト：モデル SDS「鉱油」2006年8月15日改訂版
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）
- 独立行政法人製品評価技術基盤機構：政府による GHS 分類結果「ニュートラル潤滑油用基油」、物質 ID：719（平成 18 年度分類）
- 国際化学物質安全性カード日本語版（ICSC(J））（2006）「流動パラフィン」、ICSC 番号：1597
- 平成 21 年度食品安全委員会事務局食品安全確保総合調査 「平成 21 年度農薬等のポジティブリスト制度における対象外物質の食品健康影響評価に関する情報収集調査報告書」
- 経済産業省委託調査報告書 「平成 28 年度化学物質安全対策（化管法指定化学物質候補物質の有害性情報に関する調査）報告書」
- 17322 の化学商品（2022 年版）：化学工業日報社
- 社内資料